



中学生が考えたデザインが 商品のパッケージに

大崎中学校1年生が考えたデザインが、富士屋製菓(有)が製造している商品「からいも飴」のパッケージに採用されました。

同校の1年生は、総合的な学習の時間に、大崎町の自然や産業、伝統など郷土について学習をしています。今回は、学習したことを地域にいかしていく活動として、地元の特産品をPRするための商品企画を学び、グループでデザインを考えました。10月におこなわれた学級プレゼン大会および学年プレゼン大会で選ばれたデザインの中から、同社が3作品を選びパッケージ



が完成しました。

デザインには、生徒の、「インパクトを与え多くの人に知ってもらいたい」「“パワー”が出る飴だと伝えたい」「若い人に食べてもらえるように“かわいく”“おしゃれに”したい」「伝説になるくらい美味しい飴だということをPRしたい」という思いが忠実に再現されています。

寶直太郎たから なおたろうさんは「自分たちで考えたデザインが商品のパッケージになりとても嬉しいです。伝説のからいも飴が全国に広まってほしい。若い人向けにデザインしたので、Z世代にも美味しいことが伝われば嬉しいです」と話してくれました。



長年の貢献に感謝

人権擁護委員を15年3か月(5期)務め、令和4年12月末をもって退任された稲葉正和さん(小能)が、2月1日(水)に東町長を表敬訪問しました。

法務大臣からの感謝状を町長に報告し「当初は自分に務まるのか心配でしたが、終わってしまうと、あっという間でした。相談を受ける前に自分が勉強をしないといけないので、先輩方に聞いたり調べながらやってきました。自分自身の良い勉強にもなりました」と振り返りました。

また、後任として1月から人権擁護委員に就任した春田洋子さん(籠谷)も出席し「今はわからないことが多いですが、相談者の悩みごとをしっかりと聞くことを心がけたいです」と意気込みを話されました。



在住外国人向け自転車安全教室を実施

1月29日(日)、大崎町交通安全運動推進協議会とNPOわんぱくによる在住外国人向けの自転車安全教室が開催されました。これは、(有)村田組からの要請を受けて実施したもので、通勤に自転車を利用している外国人従業員が交通ルールなどを十分に理解していないことから講習の依頼があり実施し、フィリピンからの研修生6名が参加しました。

研修生は異文化交流館においてフィリピン語によるビデオの研修を受けた後、大崎町研修センターグラウンドにおいて模擬道路を使用して信号機の横断、右折時の注意事項、夜間走行のマナーなどを真剣に学んでいました。終了後には、講習会終了証明書を受け取り、安全運転することを誓っていました。